

日本国内におけるシダレグリ遺伝資源

壽 和夫^{†1}・澤村 豊・齋藤寿広^{†2}・高田教臣

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構

果樹研究所遺伝育種部

305-8605 茨城県つくば市

Germplasm of Weeping Type Japanese Chestnut in Japan

Kazuo KOTOBUKI, Yutaka SAWAMURA, Toshihiro SAITO and Norio TAKADA

Department of Breeding, National Institute of Fruit Tree Science

National Agriculture and Bio-oriented Research Organization

Tsukuba, Ibaraki 305-8605, Japan

Summary

Based upon information obtained from the literature and internet sites, the state of preservation of weeping type Japanese chestnut (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc. var. *pendula* Makino) germplasm in Japan was investigated. As of the year 2003, 22 sites had been found where weeping type chestnut trees are still growing alone or in groups. Most of them are designated as natural monuments by the nation, prefecture, city, town or village. However, some of them have been damaged and become weak, mainly because of aging.

The stands of weeping type Japanese chestnut considered to be natural are found in Koriyama and Iwaki (Fukushima), Maruko and Tatsuno (Nagano), and Gero (Gifu). Many trees standing alone are protected on the grounds of shrines or temples.

Among 22 sites investigated, only Shinjo (Okayama) is far geographically from others.

Key words: *Castanea*, chestnut, weeping type, natural monument, シダレグリ

緒 言

ニホングリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) は我が国に自生分布するクリ栽培種の原種とされているが、いくつかの変種を含んでいる (志村, 1972)。その一つであるシダレグリ (*C. crenata* var. *pendula* Makino) は、他の変種のほとんどが極めて限られた場所での生存が伝えられ

ているだけであるのに対し、国内各地での生存が知られている (三浦ら, 1962 ; 沼田, 1984)。しかしながら自生地と思われる群落が現存している場所は少なく、樹形が奇異であることから信仰心と結びつきを生じ、神社や寺院等に奉納されて保護されてきている例が多い。

これらシダレグリの多くは国や地方自治体によって天

^{†1} 現 果樹研究所リンゴ研究部

^{†2} 現 山梨県果樹試験場

然記念物の指定を受けているが、樹齢が進んでいることもあり、保存に苦労している例も多いと思われるだけでなく、枯死しそうなもの、あるいは既に枯死してしまったものもある。このような背景から、本資料はシダレグリのに関する遺伝資源としての情報を収集・整理し、資源保存を図る一助とするためにまとめたものである。

謝辞 本調査に当たって各所在地の市町村役場、教育委員会、観光協会等の担当者各位ならびにシダレグリの所有者の方々には各種の情報を提供していただいた。ここに記して心から感謝申し上げる。

材料および方法

文献およびインターネット等の情報を収集し、所有者あるいは管理者等から提供された資料を基に現在の状況

を整理した。また、可能な限り現地調査を行い、可能であれば保存用のサンプルを採取した。

結 果

現在までに青森県から岡山県に及び国内各地の22カ所にシダレグりが生存していることが確認できた(第1表)。可能な限り現地調査を行って生育状況を確認したが、一部については現地調査が未了であるため、地元のエド委員会等からの聞き取りによって生存を確認した。また、1系統については既に枯死が確認され、5系統については生存が未確認である(第2表)。

- 1) 生存が確認できたシダレグリの遺伝資源
- 2003年現在で生存が確認されているシダレグリの遺伝資源

第1表 日本国内に生存が確認できているシダレグリの遺伝資源

名称等	所在地	出典(文献番号またはURL)
しだれ栗	青森県三戸郡南部町相内	http://www.nanbu.net/pref.aomori.jp/syakyu/bunkazai/shidare.htm
江刺家のシダレ栗	岩手県九戸郡九戸村	1
中沢の垂栗	岩手県遠野市菅笹町住吉国有林20林班	1
長松寺の枝垂栗	岩手県遠野市綾織町みさ崎2-2 長松寺	http://www2.ocn.ne.jp/~tenkenkyu/sajiki/haru.htm
しだれ栗	岩手県東磐井郡大東町登沢字大町裏	http://jinzaikouryu.or.jp/zentai/vision10/03421%E5%A4%A7%E6%9D%B1%E7%94%BA.htm
シダレグリの	岩手県西磐井郡花泉町日形須釜地区	http://www.kyoboku.com/sidare/kuri.html
びんだれ(鬘垂れ)の枝垂栗	秋田県仙北郡協和町船岡庄内	http://www.kyowa.ne.jp/kyowa/text/c04.htm
箱泉寺の枝垂栗2株	宮城県桃生郡河南町北村神尾 箱泉寺	1
石鏡のシダレグリの	福島県郡山市熱海町石鏡割石	http://www.pref.fukushima.jp/kankyo/data_m/44049.html
卜三坂のシダレグリの自生地	福島県いわき市三和町上三坂作田	http://www.pref.fukushima.jp/zanka/data_m/44100.html
萼地石山の枝垂栗	福島県東白川郡殿川村	http://www.fks.ed.jp/DB/kyoudo/48.samegawa4/html/00008.html
馬頭の枝垂栗	栃木県那須郡馬頭町馬頭 馬頭院	1
入山せ立のシダレグリの	群馬県吾妻郡六合村入山2374	http://www.pref.gunma.jp/kyoi/22agatama/syakai/kunisitei.htm
嶋の広場(小布施堂)の枝垂栗	長野県上高井郡小布施町808 小布施堂	http://www.cbusedo.com/view/nobori.htm
西内の枝垂栗自生地5株	長野県小県郡丸子町西内	1, 2
相吉のシダレグリの自生地	長野県塩尻市相吉	http://waiwai.city.shiojiri.nagano.jp/html/shakai/shakai_bunkazai04.html
小野の枝垂栗自生地	長野県上伊那郡辰野町小野	1, 2
糸川村のしだれ栗	長野県南安曇郡茶川村	http://www.vill-nagawa.jp/admin/outline/data_04_01.html
大平のシダレグリの	長野県木祖村菅2618	http://www.gds.ne.jp/scr/scr/gds.cgi?LOC=20425
竹原のシダレグリの自生地	岐阜県下呂市宮地	1, 2
小杉八王子神社の枝垂栗	岐阜県恵那郡明智町 小杉神社	http://akechi.syakyo.jp/akechicho.html
新庄の枝垂栗	岡山県真庭郡新庄村戸島	http://www91.tiki.ne.jp/~hogokyokai/siteitran/ken_tennen.htm

2004年9月22日現在

第2表 枯死あるいは生存が未確認のシダレグリの遺伝資源

名称等	所在地	出典(文献番号またはURL)
1. 枯死が確認されたシダレグリの		
和泉式部雨宿りの栗	兵庫県相州市那波 得兼寺	1
2. 生存が確認できていないシダレグリの遺伝資源		
石栗明神のしだれ栗	岩手県花巻市二枚橋	http://members3.com.home.ne.jp/tmk/boian/flower1/hana&kagyuu.htm
枝垂栗	長野県南佐久郡	1
福島の枝垂栗	長野県西筑摩郡福島町伊谷	1
根羽の枝垂栗	長野県下伊那郡根羽村中野	1
長野原の枝垂栗	群馬県吾妻郡長野原町吉森	1

2004年9月22日現在

源の所在情報は以下のとおりである。

(1)しだれ栗(町指定天然記念物)

所在地：青森県三戸郡南部町相内，相内集落と浅水集落(五戸町)との境界に当たる。

管理者：相内生産森林組合管理

現況：沼畑公彦氏(南部町相内沢構72)によれば，数年前の大雨で道が流されて，普通の車では現場まで上がれない。みごとな樹相で周辺住民の関心も高く，複製樹を庭にもっている人も多い。樹高約6m，幹周約1.5mで，樹齡は約120年といわれている。

来歴・伝承等：安達の婆が刺した杖に根が着いたと伝えられている。

(2)江刺家のシダレ栗(村指定天然記念物)

所在地：岩手県九戸郡九戸村江刺家2-135-2

管理者：九戸村教育委員会

現況：国道340号線の路傍，田代バス停のすぐ傍にある。樹高15m前後で，枝は強く垂れることはなく，傘を広げたような樹形を示している。病害虫の目立った被害はなく，樹体は健全である。

来歴・伝承等：60年ほど前に折爪岳の麓から移植したらしい。

(3)中沢の垂栗(市指定天然記念物)

所在地：岩手県遠野市青笹町住吉国有林第20林班

現況：遠野市立博物館からの情報によれば，2003年現在では樹勢が衰弱し，しっかりした枝は1本位で枯れそうな状態である。場所は山林内で，営林署の関係者に案内してもらわないと場所もよくわからないとのことである。

(4)長松寺の枝垂栗

所在地：岩手県遠野市綾織町ミサ崎

所有者：長松寺

現況：山門わき，墓地の縁にある。樹高8~10mで，枝の下垂は強くない。一部の枝が衰弱しているが，全体的には健全に見える。

来歴・伝承等：来歴は不明であるが，近隣には市指定の天然記念物の「中沢の垂栗」がある。また，昔話の一つに，すぐ近傍の集落にシダレグリのあったことが伝えられており，これらとの関連が考えられる。

(5)しだれ栗

所在地：岩手県東磐井郡大東町猿沢字大町裏

所有者：小野寺亀三郎

現況：道路から10mほど高い畑地に生存している。5年ほど前に道路の拡幅工事のために根が切られ，枯れそうになった。上の方の大枝が枯れてきているし，主幹基部も空洞化してきている。クリタマバチの被害も多く，

結実はほとんど見られない様子で，衰弱が進んでいる。来歴・伝承等：不詳であるが，すぐ横に馬頭観音が祀られている。金売り吉次が金山を掘る頃に使った馬が倒れ，これを埋めたもの。その供養に何処からか持ってきて植えたものではないかと伝えられている。

(6)シダレグリの

所在地：岩手県西磐井郡花泉町日形字須釜地区

所有者：花泉町

管理者：花泉町

現況：教育委員会によれば来歴は不詳である。以前は5株であったが，その後枯損樹も出て，現在は2樹が残っている。北側の大きい樹は樹高が8m前後で，主幹も太いが，もう1本はやや衰弱気味である。町としては天然記念物の指定も検討している。また，以前に移植も検討したが，樹齡が古く，枯れてはいけないと現場保存にしているとのことである。

現存の2樹のいずれもクリタマバチの着生はやや多い。北側の樹には結実がみられるが南側にはない。南側の樹には接ぎ木部とも思われる不連続部分があるが，北側の木には見当たらない。さらに北東側に小さい枯死樹がある。

(7)びんだれ(鬚垂れ)の枝垂栗(県指定天然記念物)

所在地：秋田県仙北郡協和町船岡字庄内

管理者：協和町教育委員会

現況：庄内地区の遅沢1号橋から約800m先の砂利道を右に入り，500mほど先に行った所の右手奥に見える。淀川の水面から20m位高い水田の崖縁にあり，川床には比較的若い杉の植林が行われている。手前には耕作放棄田があり，隣接の樹木や葛藤が絡みかけている。樹齡は約270年といわれ，樹高約10m，根元から2本に分かれており，川に向かって右側の方は裂け目が入っていて反対側が見える。クリタマバチは古い虫コブも含めて極少ない。抵抗性であるのか，クリタマバチの密度が低いのかは不明である。近辺のクリ樹にも虫コブはあるが，少なくて目立たない。しかし，近傍の協和ダム周辺には虫コブの着生が激しいクリ樹もある。枝は比較的良く伸びていて現在の栄養状態は良さそうに見える。結実はあるが少ない。葉身長20cm，幅5cm位。

来歴・伝承等：2本の標柱があり，その1本の説明文によれば「旅の僧が飛騨の国からもってきた」との説があると伝えられている。

(8)箱泉寺の枝垂栗2株

所在地：宮城県桃生郡河南町北村

所有者：箱泉寺

現況：樹高約6mで，樹齡200年前後と推測される。

本堂のすぐ横にあり、樹体は健全である。クリタマバチの被害は目立たない。結実痕は多い。

来歴・伝承等：本堂横に慈覚大師が独鈷で掘ったと伝えられる「独鈷水」がある。慈覚大師がこの独鈷水を掘るときに、暑くなって脱いだ袈裟を傍のクリの木に掛けたらクリの木が枝垂れたと伝えられている。また、「処を離れない」、即ち他の地に持ち出そうとしてもうまく根付かないとの言い伝えがある。

(9)石筵のシダレグリ(県指定天然記念物)

所在地：福島県郡山市熱海町石筵字割石

所有者：石筵牧野利用農業協同組合(石筵字水上73代表 橋本一美)

現況：石筵集落の奥に進み、最後は砂利道になっていて判りにくくなっているが、乗用車でも楽に入ることができる道幅があり、その先に石筵牧野(採草地)がある。その採草地の周辺部に樹高が2~10m位のシダレグリが約70本自生している。採草地の入り口の大きな株に県指定の天然記念物であることを示す標柱がある。また、少し離れた場所には解説板が設置されている。

(10)上三坂のシダレグリ自生地(県指定天然記念物)

所在地：福島県いわき市三和町上三坂作田

所有者：高萩稔

管理者：いわき市文化課

現況：水田地区集会所の裏手を上った、ヤマツツジに包まれた小高い丘の上にある墓地の周囲に10本程度が散在している。最も古い株は樹高7m程度、地際で2分している。古い虫コブが多く見られることから通常の年はクリタマバチの被害が激しいと思われるが、2003年の被害は少ない。結実が少ない。若い木もあるが接ぎ木部がはっきりせず、全部実生樹ではないと思われる。

(11)墓地石山の枝垂栗

所在地：福島県東白河郡鮫川村西山余所内

現況：墓地石山周辺が公園として整備されている。その山頂に稲荷神、秋葉神の小さい祠があり、その横に独立樹として生育している。樹高約6m、幹径約30cmで樹体は健全であるが、裏年に当たるのか花着きは少ない。果実は5g程度と思われる。地上部40cmの所に接ぎ木部と疑われる樹皮の不連続が観察されるが、接ぎ木部と断定しがたい程度の外見上の不連続である。日当たりのよい南側の枝はよく伸びているが、北側はほとんど伸びていない。

(12)馬頭の枝垂栗(県指定天然記念物)

所在地：栃木県那須郡馬頭町188

所有者：武茂山馬頭院

現況：境内にあり、保護の手は加えられているが、樹

幹を中心に傷みがひどく、衰弱の傾向にある。樹高は7m前後。若木を養成している。

来歴・伝承等：徳川光圀が常陸の国から運んで植えさせたと言われる。15日ほどの間隔を置いて3回開花するので「三度栗」とも呼ばれる。

(13)入山世立のシダレグリ(県指定天然記念物)

所在地：群馬県吾妻郡六合村入山2374

所有者：山本正夫

現況：道路から3m位高い畑の縁にあり、30mほど西には小規模な墓地がある。樹齢数百年と伝えられ、樹高8~10mで樹幹には空洞を生じているものの、全体として健全そうに見える。病気やカミキリムシの被害などは見られず、クリタマバチの乾枯虫コブが多いが結果枝には著しい影響は見られない。長い新梢は30cm以上も伸びていて、樹齢の割には樹体は健全と思われる。東側10mの所に2世という立型の木(15年生位)がある。また、西南方200mの駐車場の縁には2世というシダレグリ樹があるが、根元から立ち型の枝が出ていることからこちらは接ぎ木樹と思われる。

来歴・伝承等：来歴は不詳であるが、所有者の山本氏によれば、この地域は昔から長野方面との交流が多かったところなので、何らかの機会に長野方面からもたらされたのかも知れないという。

(14)幟の広場(小布施堂)の枝垂れ栗

所在地：長野県上高井郡小布施町808

所有者：小布施堂

現況：店舗敷地内に植えられている。樹高約5mで、樹齢は不明であるが、比較的若い個体と推測される。

来歴・伝承等：詳細は不明だが、古い時代に「小野の枝垂栗」を分けてもらったものらしいと伝えられている。

(15)西内の枝垂栗自生地5株(国指定天然記念物)

所在地：長野県小県郡丸子町大字平井字上の原

所有者：滝沢正一

管理者：丸子町教育委員会

現況：教育委員会の説明によれば、現在は10本前後が残され、幼木ではあるが順調に生育している。相当の距離を山に入った所にあり、夏は蝮が多く、冬は雪のために現地には近づきにくいという。

(16)相吉のシダレグリ自生地(市指定天然記念物)

所在地：長野県塩尻市北小野大出

所有者：北小野財産区(代表 金井盛吉)

現況：相吉の溜め池に面した山の南斜面に約100本が自生している。溜め池を挟んだ尾根の向こう側は「小野の枝垂栗自生地」であることから、古来は両者が一体をなしていたものであろうと推測される。小野駅周辺の民

家には複製樹と思われるシダレグリが多数植栽されている。

(17)小野の枝垂栗自生地（国指定天然記念物）

所在地：長野県上伊那郡辰野町小野

現況：JR中央本線小野駅から東に約2 km行った所の里山一つ全体にシダレグリが群生している。人の手が入っているためか、他の雑木等は見られない。樹齢数百年と思われる老木から、若い実生まで混在しているが、立ち型のクリは見られない。周囲は「しだれ栗森林公園」として整備されている。現地の北側の道を挟んだ尾根筋の向こう側に700 m程度離れた場所に「相吉のシダレグリ自生地」がある。

来歴・伝承等：天狗の栗とよんで手を触れなかったとも、また、子供達のために天狗が枝を垂らしてくれたとも伝えられている。

(18)奈川村のしだれ栗（村指定天然記念物）

所在地：長野県南安曇郡奈川村

所有者：奈川村

管理者：奈川村教育委員会

来歴・伝承等：弘法大師が通りかかったときに挿した杖が根付いたもので、逆さに挿したので枝が下向きに伸びるようになったという。また、別の口碑によれば、この地を通りかかった諸国行脚の坊さんが、空腹に耐えかねてクリの実を採ろうとしたが高くて手が届かない。そこで一心にお経を唱えたら枝が垂れ下がってクリの実を採ることができたという。

(19)大平のシダレグリ（村指定天然記念物）

所在地：長野県木曽郡木祖村菅 2618

管理者：木祖村教育委員会

現況：道がカーブした所の2 mほど高い場所に大平観音堂があり、その境内に単独樹として生存、保護されている。樹高約10 mで、すぐ横にヒノキらしい木があり、その下枝は切られているのでクリにとって大きな障害にはなっていない。しかし、時間帯によっては日陰になるためか、北側の枝には少し傷みが目立つが、南側は健全に生育している。新梢の伸長は良好で、結球したらしい痕跡も多い。

来歴・伝承等：江戸末期～明治初期頃に地元の人が辰野町小野から幼木を持ち帰り、観音様に奉納したものと伝えられている。

(20)竹原のシダレグリ自生地（国指定天然記念物）

所在地：岐阜県下呂市宮地

現況：標高540 m、面積6,000 m²前後の土地にスギやヒノキなどに混じって約80本が自生している。中には樹齢100年以上の古木もあり、大きいものは高さ6 m、幹

周囲1.8 mある。クリタマバチの被害が目立つ木が多い。地元住民によって環境の整備が行われている。

(21)小杉八王子神社の枝垂栗

所在地：岐阜県恵那郡明智町東方小杉

所有者：小杉八王子神社

現況：小杉地区集会所横を入り、細い道を山の方に上りながら左にカーブしてすぐに戻るように急な坂を登ったところに小杉八王子神社がある。社殿にのぼる石段の左右に1株ずつが現存している。クリタマバチの枯れた虫コブが目立つが、樹勢が著しく衰弱するほどではない。樹高約5 mである。樹齢は不詳であるが、比較的若い個体と思われる。

来歴・伝承等：大正15年発行の恵那郡史によれば、大正8年に三好学博士が植物学雑誌に紹介したことがきっかけで広く知られるようになった。当時は近隣の広い範囲に自生分布しており、内務省の指定、保護を受けていたとされるが、現在は周辺の地域で容易に見つけることはできない。

(22)新庄の枝垂栗（県指定天然記念物）

所在地：岡山県真庭郡新庄村戸島

所有者：新庄村

管理者：新庄村教育委員会

現況：後鳥羽上皇旧蹟のある旧出雲街道を村役場から峠方向に約2 km上った左側の路傍に2樹が生存している。1樹は樹高3 m程度で枝が低く垂れ下がっているが、もう1樹は樹高が7～8 mで枝の張りが少なく、衰弱が著しい。試験材料は低い方の木から採取した。どちらもクリタマバチの被害が目立つ。周囲にはスギやカエデの高木が多く、日陰になりがちなこととも衰弱の一因かもしれない。

来歴・伝承等：後鳥羽上皇が隠岐島に配流となり、ここを通られた時に食事をされた。この時に箸の代わりに用いたクリの枝を逆さにお挿しになられたものが枝垂れグリになったという。

2) 枯死が確認されたシダレグリ

(1)和泉式部雨宿りの栗（兵庫県姫路市 得乗寺）

昭和40年代までに枯死し、2代目等も残っていない。和泉式部がクリの木の下で雨宿りをしたところ、枝が枝垂れて傘のようになったとの言い伝えがある。

3) 生死が未確認のシダレグリ

(1)石栗明神のしだれ栗（岩手県花巻市二枚橋）

(2)長野原の枝垂栗（群馬県吾妻郡長野原町）

(3)枝垂栗（長野県南佐久郡）

- (4)福島の枝垂栗(長野県西筑摩郡福島町)
 (5)根羽の枝垂栗(長野県下伊那郡根羽村)

考 察

生存が確認できたシダレグリ遺伝資源の大部分が国、県および市町村の指定による天然記念物となっている。これらの中で自生地と考えられるのは国の天然記念物に指定されている長野県辰野町、同丸子町および岐阜県下呂市の3カ所に加え、福島県郡山市にも自生地と考えられる群落が見られる。これらの他に、塩尻市の天然記念物に指定されている相吉地区のシダレグリも群落をなしているが、辰野町のシダレグリと至近距離にあり、元来は一体をなしていたものであろうと推測される。また、規模は小さいものの福島県いわき市上三坂も自生地と考えられる。

神社、寺院等で保護されているものは岩手県遠野市、宮城県河南町、福島県鮫川村、栃木県馬頭町、長野県木祖村および岐阜県明智町で見られ、これらの大部分は単独で生育している。また、岡山県新庄村のシダレグリは2樹であるが、樹形等から判断してどちらも実生樹であろうと思われる。この2樹は神社、寺院の境内に植栽されているものではないが、後鳥羽上皇伝説にまつわる公園内に生育しているものである。

これまでに生存が確認できた22カ所の中で、21カ所は青森県から長野県、岐阜県にかけての地域に比較的連続した形で分布しているが、「新庄の枝垂栗」だけが地理的に遠い場所に生存している。調査の時期がまちまちであり、葉や果実等のサンプルが得にくい状況にあったために、これら遺伝資源の形態的な比較はできていない。単独で生存している個体の多くは来歴の詳細が不明であるが、樹形の特異性に対して興味を覚えた人々の手によ

り各地に伝搬されていったことは容易に想像できる。したがって新庄村の例のように、単純に地理的距離が遠いからといって遺伝的にも遠い関係にあるとはいえない。今後、枝梢、葉、果実等の詳細な形態調査や遺伝子解析等によって相互の類縁関係を明らかにする必要があるだろう。

摘 要

文献及びインターネットサイトによって得た情報に基づき、国内に現存するシダレグリ遺伝資源の保存状況を調査したところ、22カ所に現在も生存していることが確認できた。その多くは国、県、市町村の天然記念物に指定されているが、樹齢を重ねたためか傷みと衰弱の著しいものも多く含まれている。

明らかに自生地と考えられたのは福島県郡山市、福島県いわき市、長野県丸子町、長野県辰野町および岐阜県下呂市の5カ所であった。単独樹のほとんどは神社、寺院等の境内に保存されている。

生存が確認できた22カ所の中で、21カ所は岐阜県から青森県の間比較的連続して分布しているが、岡山県新庄村だけが地理的に離れた場所となっている。

引用文献

- 1) 三浦伊八郎, 本多正次, 小野陽太郎, 林弥栄監修. 1962. 日本老樹名木天然記念樹. p678-685. 大日本山林会. 東京.
- 2) 沼田真編集. 1984. 日本の天然記念物4. 植物. p66-67. 講談社. 東京.
- 3) 志村勲. 1972. クリ. p786-787. 佐藤公一ら編. 果樹園芸大事典. 養賢堂. 東京.



第1図 しだれ栗（複製樹）
（青森県南部町）



第2図 江刺家のシダレ栗



第3図 長松寺の枝垂れ栗



第4図 しだれ栗
（岩手県大東町）



第5図 シダレクリ
（岩手県花泉町）



第6図 びんだれ（鬢垂れ）の枝垂栗



第7図 箱泉寺の枝垂栗



第8図 石筵のシダレグリ



第9図 上三坂のシダレグリ自生地



第10図 墓地石山の枝垂栗



第11図 馬頭の枝垂栗



第12図 入山世立のシダレグリ



第13図 相吉のシダレグリ自生地



第14図 小野の枝垂栗自生地



第15図 大平のシダレグリ
(木祖村教育委員会提供)



第16図 竹原のシダレグリ自生地



第17図 小杉八王子神社の枝垂れ栗



第18図 新庄の枝垂栗